

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER

for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

Newsletter

Josai University Corporation

3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎03-6238-1300 <http://www.josai.jp/>

学校法人 城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

☎03-6238-1300

<http://www.josai.jp/>

No.3



小柴 昌俊氏

小柴氏は、岐阜県神岡町にある鉱山の廃坑を利用し、中に大き

く、中に大き

ら東京紀尾井町キャンパスB1Fホールにおいて、2002年にノーベル物理学賞を受賞した東京大学名誉教授小柴昌俊氏の特別講演会「やれば、できる」が開催されました。講演は坂戸キャンパスの清光ホールにも遠隔同時中継されました。

小柴氏は「宇宙ニュートリノの検出のためのパイオニア的貢献」のご功績により2002年にノーベル物理学賞を受賞されました。ニュートリノとは、宇宙を構成する素粒子であり、宇宙が創成された時に大量に生成され、現在も宇宙に満ちて自由に動き回っており、私達の体内をも貫通しています。しかし、ニュートリノは電荷をもっていない、他の素粒子との相互作用も大変に弱いために、宇宙から地球上に大量に飛来していることを確認するのは大変に難しい物質です。

小柴氏は、岐阜県神岡町にある鉱山の廃坑を利用し、中に大き

く、中に大き

な貯水槽を設けて宇宙ニュートリノを検証することを考案されました。宇宙から飛来したニュートリノがこの水槽の中を通過するとき、ほんの僅かな確率で水分子の中の電子と衝突し、反跳を受けた電子が水中を走る間に生じる僅かなチェレンコフ光を観測して検証しました。また、電子が発する微弱な光をなるべく多く漏らすことなく観測するために、貯水槽の容積を大きくして、その周りに光電子増倍管を敷き詰めた巨大な装置を設置しました。この巨大な装置は、神岡に設けられたニュートリノ測定装置であるということにちなみ、カミオカンデ (KAMIOKANDE) と呼ばれています。カミオカンデは地下1000メートルにあり、高さは16メートルで、直径は15.6メートルの円筒形をしていて、約1000個の光電子増倍管が取り付けられています。

講演において小柴氏は、主として3点につ

いてお話を

てお話をされました。その第1点は、「やれば、できる」の題名に関連して、中学生時代に体が虚弱であったために、ご苦労なされたことをお話しになりました。当時、父上は満州に赴任されており、小柴氏はご両親と離れて横須賀市の伯母様のお世話になっていました。しかし小児麻痺にかかって体が動かなくなり、風呂に入るのにも伯母様のお世話にならなければならず、大変に辛い思いをしたというお話がありました。虚弱であったために音楽家や軍人になる夢は挫折しましたが、次第に物理学者になる夢が芽生えていき、その後努力を重ねて、「やれば、できる」の信念をもつに至るきっかけになったと説明されました。

第2点に、ノーベル賞受賞の対象になったご研究の内容を紹介されました。小柴氏は、宇宙から地球上に飛来するニュートリノを観測するために前述のカミオカンデを考案し建設して、それを用いて太陽が発するニュートリノや超新星爆発により生じるニュートリノを測定することに成功されました。17万光年の彼方にある超新星の爆発により生じたニュ

講演会
シンポジウム講演会
「やれば、できる」2006年6月6日(火) 午前11時10分～午後12時40分
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

講師・小柴 昌俊

(東京大学名誉教授、2002年ノーベル物理学賞受賞)

主催・城西大学経営学部

講演会シンポジウム

城西大学経営学部特別講演会

「やれば、できる。」

二〇〇六年ノーベル物理学賞受賞者
小柴昌俊先生(東京大学名誉教授)平成18年6月6日(火) 11時10分～12時40分
主催 城西大学経営学部



水田理事長と小柴先生 話もはずんで

映像講座

「『雨月物語』 溝口健二没後50周年記念対談」

2006年6月17日(土) 午前10時30分～午後4時30分
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

プログラム..

第1部 映画上映『雨月物語』

午前10時30分～午後12時6分

第2部 溝口健二の世界

講師：篠田 正浩(映画監督・城西国際大学客員教授)

第3部 対談『雨月物語』と中世に生きた女たち

対談者：脇田 晴子(城西国際大学客員教授・2005年度文化功労者)

篠田 正浩(映画監督・城西国際大学客員教授)

司会：村川 英(城西国際大学教授)

主催：城西国際大学メディア学部

協賛：キネマ旬報映画総合研究所

角川ヘラルド映画

講演会
シンポジウム

2006年6月17日(土)、東京紀尾井町

キャンパスにおいて、城西国際大学メディア

学部映像講座「『雨月物語』溝口健二没後50

周年記念対談」が開催されました。メディア

学部では映像文化の受容と発信という見地か

ら、昨年の「成瀬巳喜男生誕百周年記念シン

ポジウム」に引き続き開催したものです。

当日は大学関係者、学生を含め200名を超

える方々に参

加していただ

き、B1階ホ

ールだけでは

入りきらず3

階の視聴覚教

室でも聴講し

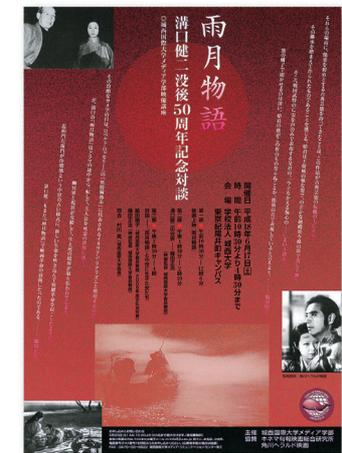
てもらおうほ



篠田 正浩氏

でも聴講し

得る方々に参



田氏はそのことを踏まえながら、当時、日本の映画界が「無防備都市」のリアリズムに圧倒され、また溝口健二もイタリア・ネオリアリズムにいかにも影響されたかを語りました。ファシストに殺されるアンナ・マニャーニが演じる庶民の主婦と、野武士に惨殺される宮木を演じる田中絹代を比較しながら、溝口健二の妻は現実のリアリズムの世界から主人公を死霊の世界に誘い、人間の修羅を能形式で語った現世と幽冥界が交錯する世界に到達したと評価しました。

大学で中世芸能史を専攻した篠田氏の分析は、溝口健二のリアリズムが宮木の「もののあわれ」の世界から、さらに京マチ子が演じた朽木屋敷に住む若狭の亡霊のものものけの次元まで行き着き、この次元の違いを能でいう前ジテ、後ジテと見て「リアルで非情な眼が溝口健二の本質であったが、ドライに見てゆくと、ものあわれ」がものけの世界にまでカメラアイが入り、溝口独特の凝視空間、凝視時間が画面を支配していく」と分析しました。

第3部では、中世女性史が専門で城西国際大学の客員教授であり、2005年度の文化功労賞受賞者である脇田晴子氏を迎えて、「『雨月物語』と中世に生きた女たち」というテーマで、脇田晴子氏と篠田正浩氏の対談と

トトリノを観測することに成功した時のお話は、聴衆にとっても大きな感動でした。宇宙ニュートリノの研究は、小柴氏が退官された後も後進の研究者達に受け継がれて、より巨大な「スーパーカミオカンデ」や「カムランド」が建設されることになり、世界中の研究者の関心を集めつつ進展しています。

第3点は、「今回は経営学部主催の講演会であるので、特にお話したい。」とお断りになった上で、受賞したノーベル賞の賞金を基にして、我が国の基礎科学を育成するために開設された「平成基礎科学財団」について説明をされました。この財団を育成するために、小柴氏はご著書『やれば、できる』(新潮文庫)などで得る収入をこの財団に寄付することとしているとご説明になり、この講演会の聴衆にも財団への協力を呼びかけられました。

講演の後、会場内から出された数人の質問にも、小柴氏は懇切丁寧にお答えくださいました。両会場をほぼ満席にした聴衆は、ノーベル賞の研究の雰囲気少なからず味わい、小柴氏のとてめ気さくな人柄にもふれて、大変に和やかな気持ちになる素晴らしい講演会でした。



なりました。

脇田氏は「芸術作品に歴史の違いを指摘することは野暮なこと」とおっしゃりながら、これまでの研究を踏まえ、溝口作品と史実の違いを指摘しました。その1つに「土器は女が作り、陶器(須恵器)は男が作る。古代・中世では、女の作った土器を男が売りに出て、土取りや薪運びなど力仕事をする。場面に設定された北近江では筑摩鍋が有名で、女は筑摩明神の祭りにおいて、大きな鍋に自分と交わった男の教だけ小鍋を作って入れて供えるという風習がある」と、軽妙な語り口で観客を魅了しました。また、「森雅之が演じる源十郎は奥さんが作った土器を売りに行き、そのまま儲けた金を持って霊のところにいくとした方が面白いのでは」と述べて会場を沸かせました。さらに、「当時の畿内と近辺は、村落や都市の共同体編成が強く、村はややすくと攻め込まれることはなかった。軍が勝手に村に入り、強奪されない仕組みが作り上げ

られていた。無力とされていた村落の百姓や女たちは強かった」と指摘されました。

ご自身も能舞台で舞う演者であり、『能楽の中の女たち』の著書もある脇田氏は、『雨月物語』の能場面を「能楽をはじめとする古典芸能を持ってきたことは、この作品が古典芸能の伝統の上に立ち、その継承を踏まえて作られたもの。姫君は王朝風の雅な姿で、のどかな越殿楽今様の節で美しく舞う。そこへ戦国武将の亡霊を声のみで表現する父君の謡を、能の囃子で聞かせるのは凄い。姫君の雅がこの世のものならぬことを、能楽の音で表現している」と、伝統を踏まえながら映画的手法に劇化した溝口健二の功績を指摘されました。さらに、「こうした映画的手法が秋成の『蛇性の淫』とは違った優美さ、『浅茅が宿』の戦乱の中の庶民生活を描き、その両者を一人の男を媒介として繋いだところに、意外と戦後社会の歴史性を持つ。出世や金儲けに狂奔する男立ち、平和を希求し、生活と子供を守りたい女、『浅茅が宿』にはなかった子供が加わっていることから、それがうかがえる」と指摘されました。

篠田氏は亡霊となった宮木が源十郎を元の家屋に導く場面で「戦国の地獄をさまよった主人公の男(源十郎)が到達したこの炎の暖かさは、この映画が作り上げたメッセージであり、溝口健二のラストカットの長い凝視は、映画でしか体験出来ない時間の体験であり、それは映画の力を示した瞬間でもあった」と指摘しました。1953年にヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞した『雨月物語』は、当時まだ世界に知られていなかった日本映画の実力を示した意味でも画期的な作品でした。会場からは改めて『雨月物語』の魅力に酔いしれ、また二人の熱の入ったトークに多くの質問が寄せられ、活気のある充実した対談となりました。

現代政策学部開学部記念学術講演会 「日本と中欧 新たな関係構築に向けて」

2006年5月31日(水) 午後6時~午後8時
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

講師：ゾルタン・シュディイ(元在日ハンガリー大使)
主催：城西国際大学現代政策学部



去る5月31日(水)、東京紀尾井町キャンパスにおいて、現代政策学部開学部記念学術講演会「シリーズ グローバリゼーションの新潮流(全3回)」の第1回として「日本と中欧 新たな関係構築に向けて」が開催されました。

な関係構築の必要性の5つの内容から構成されています。

ハンガリーを中心に、チェコ、ポーランド、スロバキアといった中欧諸国は、中世以来、多様な民族を抱えながらもローマカトリック

講演者には、元駐日ハンガリー大使のゾルタン・シュディイ氏をお招きしました。シュディイ氏は、旧東欧圏の外交官養成を一手に引き受けていたモスクワ国際関係大学に進学して日本語を学び、卒業後はハンガリー外務省に勤務、駐日ハンガリー大使館員書記官、アジア太平洋局長、駐タイ大使などを経て、1995年から4年間、駐日大使の任に就かれていました。そして現在は、自ら設立したコンサルティング会社代表として日本とハンガリーの経済交流の文字通り橋渡し役を務めています。

シュディイ氏の講演は、①東欧革命以後の中欧概念の復活、②中欧の移行経済諸国といわれる発展途上諸国との相違、③EU加盟に至るいきさつ、



ゾルタン・シュディイ氏

④2004年5月のEU加盟の経済的インパクト、⑤日本の国益創出に向けての中欧との新たな





ポール・B・ワット氏

本国際講座は、城西国際大学国際教育センターが東芝国際交流財団との共催で企画運営しています。

2005年には、ここでの講演内容を基に『国家の品格』というベストセラーを書かれた藤原正彦氏を筆頭に、嶋信彦氏、セーラ・カミングス氏、城西国際大学副学長国際教育センター所長の石田益実教授などをお迎えして、国際的視野に立って国際理解について講演して頂き、毎回大変好評でした。

2006年も、「世界に映る日本〜日本再発見」というテーマで、計6回の講演を予定しており、城西国際大学東京紀尾井町キャンパスB1Fホールにて著名なジャパノロジストや文化人の方々に講演していただく予定です。



講師：第1回 五百旗頭眞氏（神戸大学教授）
第2回 ポール・B・ワット氏
（アメリカ・デューボア大学アジア研究科科長）
共催：城西国際大学
東芝国際交流財団

国際講座

「世界に映る日本〜日本再発見」(シリーズ全6回)

- 第1回 『アメリカから見た日本、日本から見たアメリカ』
- 第2回 『日本人の宗教心〜仏教再発見』

東京紀尾井町キャンパスB1Fホール
第1回 2006年6月6日(土) 午後2時30分〜午後6時30分
第2回 2006年7月15日(土) 午後2時30分〜午後6時30分

に基づく一体感のある文化を形成してきました。二重帝国のもと、ブダペストは19世紀末には欧州で最も繁栄した都市の1つでした。しかしながら、第一次大戦による帝国の解体、第二次大戦のソ連軍による占領によって、この地域のポテンシャルを長期にわたって閉塞させてきたのです。

加えて、EU加盟が、旧ソ連東欧圏との人的関係や、欧州の中央に位置することなど、固有のアドバンテージをにわかには際立たせるようになってきました。シュデイ氏は講演の締めくくりに、中欧諸国のアドバンテージにもっと日本は注目すべきであり、より濃密な関係構築を図ることで、双方の利益を高めることが可能であるという指摘をされました。聴講していた学生のみならず、教員にとっても、非常に新鮮かつ興味深い講演でした。

国際講座 後期スケジュール

- 2006年9月30日(土)
講演「ポスト小泉の日本〜世界から見た日本外交」
講師：嶋 信彦 (ジャーナリスト)
- 2006年10月14日(土)
講演「米欧回覧実記に見る日本」
講師：ペーター・パンツァー
(ドイツ・ボン大学日本文化研究所教授)
- 2006年11月11日(土)
対談「明治期から見た日本」
対談者：瀬戸内 寂聴
(作家、1997年文化功労者顕彰)
ヘルベルト・プルチョウ
(城西国際大学教授・比較文化研究所長)
- 2006年12月9日(土)
講演「アジアから見た日本・日本から見たアジア」
講師：グレン・D・フック
(英国・シェフィールド大学教授)



五百旗頭 眞氏

今後の日米同盟と日中協商の行方について語られました。また、今後の日本政治はどう展開する

のか、常任理事国入りはどうなるか、中国との関係はどうなるか、などにも触れて講演時間を忘れてしまうほど興味深い内容の講演となりました。

6月6日(土)、日本政治史や日米関係論の専門家である神戸大学教授の五百旗頭眞氏をお招きして、『アメリカから見た日本、日本から見たアメリカ』という表題で第1回講演が行われました。

次いで第2回講演は7月15日(土)に、アメリカのデューボア大学アジア研究科科長のポール・B・ワット氏をお招きして、ワット氏の専門である日本仏教に関連して『日本人の宗教心〜仏教再発見』という表題で講演が行われました。

講演後の質問では、戦争時の仏教について、仏と菩薩の理解について、神社仏閣の両方に行く日本人が世界からどのように写っているのか、武士道と騎士道の宗教との関係についてなどの幅広い内容が挙がり、最後まで盛り

上がった講演会となりました。後期からは、第3回を9月30日(土)に予定しており、その後も12月9日の第6回まで予定されております。

国際講座

「世界に映る日本―日本再発見」 対談「明治期から見た日本」

2006年11月11日(土) 午後2時30分～午後6時30分
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

対談者：瀬戸内 寂聴氏(作家、1997年文化功労賞、2006年文化勲章)

ヘルベルト・プルチョウ氏

(城西国際大学教授・比較文化研究所長、カリフォルニア大学名誉教授)

共催：城西国際大学

東芝国際交流財団



瀬戸内 寂聴氏

口一葉までの間、日本文学史の中に女性が多く表れない大きな長い空白があることに触れられ、明治期がその空白にピリオドをうった時代であったこと

をお話しされました。それをうけ、寂聴氏は、女性の文学が創出された時代と、それを可能にした背景について語りました。まず、平安



時代には、「源氏物語」や「枕草子」など優れた作品が多く生まれたのですが、それはこの時代の制度としての通い婚が、男女の恋文のやりとりを必要不可欠なものにしたこと、それに加えて、時の政治家や宮廷が文学活動、文学作品を保護したこともすばらしい作品を生んだ大きな条件であったと述べられました。次に、明治時代の樋口一葉を取り上げて、彼女が小説家として成功しながら、その作品の中では、明治時代以前の女性が社会の中で厳しい運命にさらされてきたことを訴えてもいることを指摘されました。

樋口一葉、与謝野晶子、画家の上村梅園といった女性が登場する明治時代は、各時代の転換期と同じように、新しいものが日本に紹介され取り入れられた時期でした。しかし、日本が1000年以上モデルにしていた中国への依存を終え、西洋をモデルにする動きが始まった点で、それまでとは別の変換期でありました。文学という切り口において、明治という時代の日本をあらためてグローバルな視点で捉えなおしたお話を、寂聴氏の楽しい語りとともに受講者はおおいに楽しみました。

プログラム支援

現代政策学部の教員教育プログラム

第1回基礎研修会

2006年3月24日(金) 午前11時～午後8時30分

東京紀尾井町キャンパス

プログラム支援

代表者：小淵 洋一(城西国際大学現代政策学部長 教授)
目的：現代政策学部教員の教育力強化を目的とした独自プログラムの開発

2006年度より開設された現代政策学部では、専任教員の教育力強化を目的とした教員教育プログラム開発研究の申請をJICP ASに行い、それが認められたため、早速開設を目前にした3月24日(金)、東京紀尾井町キャンパスにて第1回基礎研修会を実施しました。

田中昭学長、森本雅憲教務部長、白幡晶葉学部長からお話をいただき、さらに外部から井上昌美氏(新日本インテグリティアシユアランス株式会社)と尾崎妙子氏(JUEクステーション 秘書検定対策講座担当講師)をお招きして研修が行われました。

基礎研修会は、現代政策学部教員、特に新任教員の本学への積極的なコミットメントを図るとともに、本学部のミッションを理解・浸透させ、教育力の向上を図ることを目的として実施されました。

水田理事長からは「城西国際大学の教育理念と教育方針」について、田中学長からは「城西国際大学の40年の発展と今後」、森本教務部長からは「城西国際大学と教員」についてお話をいただき、特に新任教員には城西国際大学の発展の歩み、教育理念、組織について深い理解を得られたと思います。続いて白幡学部長よ

り医療栄養学科の開設から4年間についてのお話をしていただき、各教員にとって現代政策学部が掲げる「パーフェクトプラン」の実現のために参考となる内容となりました。

一方、外部からお越しいただいた井上氏と尾崎氏には、井上氏が「大学の社会的責任」、尾崎氏が「ビジネスコミュニケーションの基本」についてお話をしていただき、大学の社会的責任(USR:University Social Responsibility)やリスクマネジメントについて考えるだけで

なく、ビジネスの基本を改めて学ぶことにより、学生や学外の方への対応、高校訪問・企業訪問で即役立つことができる内容となりました。

今回の基礎研修会の結果、教員ひとりひとりが本学への積極的なコミットメントを図る上での重要なベースを形成できたと思えます。今後も、学部のミッション遂行に必要な教員教育プログラムの開発のために様々な研修会等を予定しております。

観光学部の教員教育プログラム

第1回FD 2006年2月25日(土) 26日(日)
第2回FD 2006年3月25日(土) 26日(日)
千葉県鴨川市 安房キャンパス

プログラム
支援

代表者…石田 益実(観光学部学部長、教授)
目的…観光学部教員の教育力強化を目的とした独自プログラムの開発

高等教育を取り巻く環境は、大学のあり方を真摯に見直し、人材育成ニーズに応えるべく直ちに、かつ持続的な改革に取り組む必要性を提示しています。こうした改革は、単に教育内容や制度の見直しにとどまるものではなく、学生指導にあたる教員の果たすべき役割の定義を見直させ、なおかつ、教員自らのたゆまぬ意識覚醒を促して最大限の教育効果をあげる仕組み作りまでをも要求しています。またその根底では、法人および本学の歴史や伝統を教員が正しく理解し、その帰属意識を高め、これら新たな改革に向かうことも必要とされます。

2006年4月より開設された城西国際大学観光学部は、こうした高等教育を取り巻く環境を見据え、専任教職員の教育研修プログラムを開発し、実施することを目的とした開発研究をJICPASに申請し、承認されま

した。ここでは、学部開設に併せて着任教員全員に100%の力を教育に発揮してもらうべく、授業展開に関わる必要事項を整理し、徹底させる方策も含まれ、そして最終的には、教職員相互の連携を図り、「新しい教育」を生み続ける仕組みを構築、実践し、再検討をしてマニュアル化することが目指されます。

このプログラムに基づき、観光学部では、開設に先立ち、2月25日(土)と26日(日)に第1回目のFDが観光学部入学内定者に対する現地説明会に合わせて、続いて3月25日(土)と26日(日)に第2回目のFDが新高校3年生対象のオープンキャンパスに合わせて、それぞれ実施されました。

第1回目のFDでは、まず石田益実学部長より「観光学部の目指す教育について」とのこと、観光学部の指針、育成する人材のイメージと教育の三本柱、海外教育プログラム

の位置づけ、パーフェクトプランなどの説明を通して、学部目的と学部教育目標についての共通認識が確立されるべくお話がありました。

続いて増子勝義副学部長から、「目標達成のための教育上のポイントと必要なスキル」について、また、細やかな学生指導を行うために何が必要となり、どのように対応するかについて明確な説明がなされました。

次に倉林眞砂斗学部長より、「専任教員の業務と評価」の題で、観光学部が考える大学教員の資質、教員の役割についての意識改革の必要性、要求される職務や勤務体制等についての言及がなされ、それに対成す形で、業務評価システムの必要性とそのシステムのポイントについて説明がなされました。

最後に、石田学部長より新1年生の教育からスタートする独自のアドヴァイザー制度、海外教育、資格取得指導などについての説明があり、4月に新入生が入学する上での効果の実施にむけての課題が提示されました。1ヶ月後の3月25日に行われた第2回目の

FDでは、和智綾子教授から新入生へのオリエンテーションについて、増子副学部長から履修登録指導についてそれぞれ説明があり、間近に控えた新年度の準備が着実に進められました。

その後、前回提示された課題について石田学部長の議長で、発表者からの発表、議論がなされました。次いで倉林学部長から専任教員の業務評価システム立ち上げについての説明と参加者による議論が行われました。さらに、増子副学部長より2007年度学生募集の方針と施策について、年間スケジュールの作成や役割分担などが決められ、次年度に向けた準備もスタートしました。

観光学部開設前に行われた2回のFDは、観光学部専任教職員の間の共通認識や取り組むべき課題に関しての共通理解を形成させ、さらに、教職員全体の連帯感をも生ませ、新学部運営が円滑に進むベースの構築に大きく寄与したと思います。今後も、特色ある学部として発展すべく、継続的に完成年次の4年後を視野にFD実施が予定されています。

多様化社会と女性のキャリア支援プログラム21

プログラム
支援

代表者…川辺 純子(城西大学経営学部 助教授)
目的…女子学生向けキャリア支援プログラムの開発と教員研究調査プログラムの開発

グローバル化、IT化、少子高齢化と新たな社会構造の変化が急激に進展しています。そうした中、卒業後この社会に積極的に関わっていくために、本学の女子学生に女性の社会的役割の変化を理解させ、それに応じたキャリア意識を高める必要性があると考えられます。

本プログラムは女子学生を対象に実施するキャリア形成支援プログラムの開発と教員によるプログラムの以下のような開発調査・研究を目的としています。
①21世紀・多様化社会に求められる女性人材の実態調査と育成支援の具体的な方法を開発すること、②女性教員による女子学生のキ

キャリア支援開発を行うこと、③学部を超えて女性教員が協力して、プログラム開発に取り組むこと、④キャリア支援を実践する教員によるプログラム開発のための研究調査をすること、⑤他学部での利用が可能になるよう、プログラムの分析、評価および公表を通じて共有化を図ることの計5点を特色としています。

これまでプログラム開発のための準備を行ってききましたが、2006年12月1日(金)に「女子学生のキャリア形成」というテーマの講演会を実施する予定です。講師にはマスコミ勤務、海外留学、外資系企業勤務を経て、起業したGIALジャパン代表清宮普美代氏をお呼びします。

出版助成

出版助成

『ジェンダーで読む〈韓流〉文化の現在』

JICPASの出版助成制度により、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所編で現代書館から書籍『ジェンダーで読む〈韓流〉文化の現在』が出版されました。

本書第一部は、2005年2月26日に学校法人城西国際大学紀尾井町キャンパス完成の記念行事として、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所、同大学院女性学専攻、城西短期大学が共同で開催したシンポジウムの記録となっております。このシンポジウムは、話題の冬ソナを取り上げたことにより300名近い来場者があったものです。

第二部は、同研究所員による「冬のソナタ」を初めとする韓国のドラマ、小説、映画、観

実施予定活動

講演会：女子学生のキャリア形成
 講師：清宮 普美代 (GIALジャパン代表)
 目的：①実社会において求められる女性人材の理解を深め、②キャリアの具体的な内容と達成に向けて女子学生の意識を喚起し、今後のキャリア形成にいかしていく。
 日時：2006年12月1日(金)
 午後3:15～午後4:45
 主催：多様化社会と女性のキャリア支援プログラム21

光についてのエッセイを収録したものとなっております。

本書は、いくつもの新聞の新書欄で取り上げられており、その効果もあるのか、売れ行きも好調となっております。



ジェンダーで読む
 〈韓流〉文化の現在
 城西国際大学 ジェンダー・女性学研究所編
 現代書館 (1,500円+税)

国際交流活動

海外研究者招聘プログラム

第1回 2006年1月24日(火) 午後3時30分～午後5時30分
 第2回 2006年2月14日(火) 午後3時30分～午後5時30分
 第3回 2006年3月7日(火) 午後3時30分～午後5時30分
 東京紀尾井町キャンパス3F 302教室

国際交流活動

講師：第1回 楽美龍(上海交通大学国際運航系主任、教授)
 第2回 ジョナサン・ン
 (香港大学工学部生産システム工学科助教授)
 第3回 ジェラルド・パーク
 (ジョージアサウザン大学経営学部助教授)
 主催：城西国際大学大学院経営学研究所



ジェラルド・パーク氏

まず1月24日(火)には、上海交通大学副校長の鄭成良教授、国際運航系主任の楽美龍教授を招聘しました。上海交通大学

2006年1月から3月まで、上海交通大学、香港大学、ジョージアサウザン大学の3大学から、サプライチェーンマネジメントに関する研究者をそれぞれ1週間程度の日程で本学に招聘して、城西国際大学経営学研究所との共同研究を推進するとともに、講演会を開催しました。この研究活動は、文部科学省の科研費補助金予算によって実施したプロジェクトです。



鄭成良 副校長(前列中央)と楽美龍氏(前列左)

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 地下鉄有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 地下鉄南北線 永田町駅 9番出口より徒歩5分
- 地下鉄丸の内線・銀座線 赤坂見附駅 弁慶口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四谷駅より徒歩10分



鄭成良 副校長が水田理事長を表敬訪問

学は、私たちの研究テーマであるサプライチェーンマネジメントの分野で先進的な研究を進めています。

次いで2月14日(火)には、香港大学からジョナサン・助教をお招きしました。いかにサプライチェーン・システムをデザインするかという研究テーマについて講義をしてもらい、研究交流を深めました。

3月7日(火)には、米国のジョージア州立大学からジェラルド・パーク助教をお招きし、プッシュプル・バウンダリーという概念を使ったサプライチェーン・システムのモデル化についての講義をお願いし、共同研究を進めました。

ここでの研究成果については、2005年度末の本学大学院経営学研究科発行の英文紀要『The Josai Journal of Business Administration』に論文で報告しています。これらの研究は、2006年度も引き続き行

われており、現在、国内外の学会誌への論文投稿、また2006年度未発行の上記の英文紀要にも第二報が掲載予定です。

このような海外の大学との研究交流を行う中で、主として大学院生を対象とした教育活動との連動を強めていく努力をしています。たとえば2006年8月には、夏休み期間を利用して、上海交通大学の環太平洋研究センターの協力により、本学大学院生7名が上海でインターンシップを行いました。参加した院生全員が大変貴重な勉強と体験をすることができました。

この企画は、2006年1月に本学に來校した上海交通大学の鄭成良副校長と本学の水田理事長との面談がきっかけとなり実現したものです。これからは海外の大学との研究交流をはかっていくとともに、教育活動へと展開していくように積極的に取り組んでいきたいと考えます。

学校法人 城西大学

 城西大学 / 城西短期大学  城西国際大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03(6238)1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03(6238)1300 FAX 03(6238)1299